

新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論  
**食道がんと胃がんに対する個別化治療**

講義日：2022年11月26日（土）

講師：門脇 重憲（愛知県がんセンター 病院 薬物療法部 医長）

**要旨**

食道がん・胃がんに対する個別化治療としては、現時点では CPS PD-L1 陽性食道扁平上皮癌に対するペムブロリズマブや HER2 陽性胃がんに対するトラスツズマブやトラスツズマブデルクステカンのみであり、治療開発が立ち遅れている。しかし、食道がんの一次治療として化学療法もしくは抗 CTLA-4 抗体との併用で抗 PD-1 抗体が生存延長を示し、さらに HER2 や FGFR を標的とした治療開発が行われている。胃がんにおいても一次治療として化学療法との併用で抗 PD-1 抗体の生存延長効果が示されるとともに、MSI-H での免疫チェックポイント阻害剤の有効性が示されている。有望な標的分子として HER2、Claudin18.2、FGFR、MET 陽性胃がんに対する治療開発が進められており、有望な治療成績が報告されつつある。本講義では、発展途上の食道がん・胃がんにおける個別化治療の状況や今後の展望について概説する。